

西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西 規之

掃除から気づくこと

掃除から気づくことがあります。私は毎朝7時30分頃から玄関や校門付近の掃除をしています。その後、1校時目には本館と旧館、体育館下の廊下をほうきとちりとりでゴミや砂を掃き集めています。そうすると、掃除をしながら色々なことに気づかされます。

①見る方向によって見え方が違う

校舎内を掃除するとき、まず旧館1階廊下を西から東へ歩きながら掃除をします(1回目)。そして、旧館と本館の1階から3階までの廊下や階段をすべて掃除し終えた後、最後に再び旧館1階廊下を今度は1回目と逆方向の東から西に歩きながら掃除をします(2回目)。1回目に西から東へ進みながら掃除するとき、目をこらしてゴミや砂を完璧にほうきで掃き集めているつもりです。しかし、2回目に逆方向に進みながら床を見ると、いつもいくつかのゴミや砂を発見します。その時、「おかしいな。1回目に通ったときに完璧にゴミを掃きとったはずなのに。1回目に見えなかったゴミが2回目に見えるようになるのは不思議だな。歩く方向が違うだけなのに」と思います。そして次のことに気づきます。「見る方向(見方)によって見え方が違うんだ」ということを。これは人に対しても同じではないでしょうか。ある一面だけ見て「あの人は〇〇だ」などと決めつけていることはないでしょうか。ある人をある角度(一面)だけから見て判断して悪いところばかり目についても、別の角度(一面)から見ると、素晴らしいところが見つかることがあるかもしれません。人をある一面だけから判断するのではなく、見方を変えて色々な角度から見ることにより長所や良いところが見え始めることもあるのではないのでしょうか。そのことによって、「あのひとと友だちになりたい」と思えるようになるなど、交友関係も広がっていくのだと思います。今年は、色々な角度から人を見て、良いところをどんどん見つけてみてください。

②ある程度しんどくなればやりがいは生まれない

玄関から校門にかけての掃除も辛いものがあります。夏は暑く、冬は寒い。これは当たり前のことですが、特に秋の落ち葉の多さには閉口します。掃いても掃いても落ち葉は容赦なく落ちてきます。教頭先生や1年生美化委員さんの協力を得ても一

通り掃き終えるのに長い時間がかかります。木につくたくさんの紅葉した葉を見ると、「まだこれからこんなに葉が落ちてくるのか」と呆然とし、心も憂鬱になります。このような状況は、毎年10月下旬から12月中頃くらいまで続きます。しかし、落ち葉がすべて落ちてしまうと、校内での掃除はあまりやる事が無くなってしまいます。今まで掃除できなかった他の場所を掃除したり、校門の北側の道路(空港線)の歩道などを掃除に行きます。そうすると不思議なことに、あの落ち葉が多かったときのことを思い出すのです。「苦しくてしんどかったけれど、落ち葉がたくさんあった時の方が掃除のしがいやりがいがあったな」と。「やる事が無いということ程さみしいことは無い。少々しんどくともやる事があるということはあるがたいことだ」ということを再確認することができるのです。みなさんも日頃の生活の中でしんどいことや辛いこと、でもやらなければならないことがあると思います。今年は、そんな時でも邪魔くさがらずに「やる事が無いよりましだ」という思いで乗り切ってください。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止について

みだしのことについて、令和2年11月に、伊丹市教育委員会からのお手紙を配布したところですが、現在全国的に感染の拡大が見られますので、再度のお願いをいたします。

伊丹市では、感染拡大防止の観点から、生徒やその同居者が濃厚接触者に特定された場合や、保健所等の指示によりPCR検査を受ける場合は自宅待機(出席停止扱い)としております。趣旨をご理解の上、生徒やその同居者が濃厚接触者に特定された場合や、PCR検査を受ける場合は、決まった時点で、速やかに学校へご連絡くださいますようお願いいたします。

ホームページを適宜更新中！！